

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 大慈会
施設名	たつのこのはら保育園
報告者（役職）	石丸 慎介（園長）
住所・連絡先	〒216-0005 神奈川県 川崎市 宮前区 土橋4-7-1
	☎ 044-922-9200
	E-mail tatunokonohara@daijikai.com

○タイトル（保育計画）

保育の質を高めるために

○主な助成備品

移動式三角鉄棒、パラバルーン、砂場収納庫、屋外掲示板・壁面式、ダブルスライダー、アドベンチャージム、軽量ライトマット・巧技台Bセット

各年齢児に対して遊具や用具を使い、保育の質が向上し、子どもたちの体の成長につながり、それに伴う心の成長が子どもたちの自信や他者との立脚点になり、生きる力につながられることを目指しました。

・移動式三角鉄棒

（ねらい）

鉄棒にぶら下がったり、前回り、逆上がりなどの鉄棒遊びを通して園児の懸垂力、支持力、平衡感覚、バランス感覚などの運動遊びを好きになってもらえる環境を作る。

（具体的な実施内容）

運動指導の時間に鉄棒の持ち手や、姿勢、体を支える、筋肉の入れ方などを指導することができ、思いのままに体を動かし、園児の平衡感覚や支持力、懸垂力の向上を図る。また、園庭に常時、出しておくことで園庭自由遊び中に、やりたいときにいつでも鉄棒にチャレンジすることができる環境をつくった。子どもたちの運動遊びで鉄棒を取り入れることができるようになったことで、少し難しい課題についてチャレンジする気持ちを育てることができ、また鉄棒が得意な子が出来ない子に教えるなどの姿が見られ、『できた力』が『できる力』に代わっていく発展する姿も見ることができた。

（今後の課題と展望）

運動能力の向上に伴い、子どもたちが、より自分の思いのままに体を動かすことができ、体を動かすこと、出来るようになることが楽しいという向上心と共に、怪我をしない身体づくり、心身の健康につなげ、他者とのかかわりの中でたくましく、生きる力が向上することを望みます。



・パラバルーン

(ねらい)

集団活動を行う際に、パラバルーンで音楽に合わせて気持ちと動きを一つにすることで互いの気持ちを思いやり、集団活動の楽しみを学ぶきっかけをつくる。

(具体的な実施内容)

運動会の演目で、3歳児の競技として取り入れる。友だちを求めるようになる時期になり、友だちと一緒に協力して行う活動として取り入れる。大きなバルーンをみんなの力で大きくしたり、膨らませたりして食べ物に見立てたり、洗濯物に見立てたり、メリーゴーランドに見立てたり、友だちとイメージの共有もでき、楽しくみんなの中の自分を少し意識することができた。音楽に合わせてリズムよく、体を動かすことでバルーンの形や動きが代わっている姿を見て心地よく感じている姿もあり、ひとりではできない楽しさというものを感じているようだった。

(今後の課題と展望)

これからは、4歳児、5歳児も活動の中で使用して、音楽に合わせて行う動きをグループで子どもたちに考えてもらい、グループごとに発表するなどして考える力や、意見を出し合いながら自己を調整する力などを育て、一体感を感じることができるように取り入れていく。また乳児（0、1、2歳児）や子育て支援においても、バルーンの下で天井が上下する中で心が動き、楽しいと思えるような地域子育て支援活動にも取り入れていくことを想定している。



・砂場収納庫

(ねらい)

園庭や砂場で使う遊具を収納し、子どもたちが遊びこみたいときに自由に遊具の出し入れを行え、遊びを想像し、友だちとイメージを共有しながらどんどん広げられるような様々な素材が揃えられる環境にする。

(具体的な実施内容)

中庭園庭に設置をし、園庭遊びの際に使用する砂場道具やボールなどの遊具の整理整頓、保管の場所として使用している。園児に物を大切に扱うことや使ったものは元の場所に戻す、次に使う人のことを考えるなど整理整頓やお片付けを通して、人の事を思いやる気持ちや物に対する愛着などの気持ちが芽生えるよう活用している。また、使用する遊具の置き場所が明確になることで、「この遊びがしたい」という意欲が表出した時にすぐに遊具の場所が分かり、遊びの広がりが見られている。

(今後の課題と展望)

子どもたちの遊びの広がりに合わせて、遊具が増えてきているため、収納庫内の遊具の配置や遊具の選定などを行うようにしている。その中で、子どもたちが戸惑うことなく整理整頓がしやすいよう環境設定をすることでねらいに則した成長に繋がられるようにしていく必要があると感じている。

・屋外掲示板、壁面式

(ねらい)

掲示板に子育て支援情報や保育園の行事活動内容などを掲示して保育園活動を地域に知らせ理解して頂く。また地域の子育て中の親子を対象とした活動を広報し、イベントや情報提供を行い保育園が地域の懸け橋となるような信頼関係とコミュニティづくりを行えるようにする。

(具体的な実施内容)

屋外掲示板に子育て支援情報や保育園の行事活動内容、イベントのお知らせなど掲示することで、地域の子育て世代はもちろんのこと、近隣住民に対して保育園のことを知ってもらい、地域と園とが繋がるきっかけとして活用することが出来ている。地域との共存は、保育園を運営するにあたり大きな課題となる中で、掲示板が大きな役割を果たしており、より身近に園を感じてもらうことができています。

(今後の課題と展望)

保育園をより身近に感じてもらうとともに、地域支援の拠点として活動ができるように掲示板を活用していきたい。地域とのコミュニケーションづくりや信頼関係がより深まるよう、その中で掲示内容や掲示方法などを検討していくとともに、地域支援活動に注力していきたいと考えています。



・ダブルスライダーとアドベンチャージム

(ねらい)

乳児（0歳児、1歳児、2歳児、地域、一時保育）がスピード感や滑る時の基本姿勢や全身を使って安全に遊べる環境を屋上園庭に作り、心身の発育を促す。

(具体的な実施内容)

屋上園庭に設置をし、乳児クラスや子育て支援センターに遊びに来ている子どもたちの戸外活動の遊具として活用をしている。事故予防のため、遊具周辺には人工芝を敷き、安全に遊ぶことが出来るよう対応をしている。ダブルスライダーとアドベンチャージムを使用した遊びを取り入れるようになってから、滑る、登る、くぐるなどの全身をダイナミックに使った動きがより盛んになっている。また、順番を待つこと、譲ったり、主張したりと社会性の育む場にもなり、遊具を通して心身の発育が見られるようになっている。

(今後の課題と展望)

心身が発達することで、よりダイナミックに、より速く滑りたいなど挑戦をする気持ちが芽生える中で、子どもの気持ちを汲みながらも、怪我の無いよう安全に楽しく遊ぶことの出来る環境作りに努めていきたい。その中で子どもたちの体力面、関係性など心身の発達を促し、成長へと繋がることを望んでいる。また、地域の方が子どもたちの遊ぶ姿を通して共有、共感し、コミュニケーションをとるきっかけとなることを期待している。

・軽量ライトマット

(ねらい)

マット活動を取り入れ、園児の支持力、跳躍力、平衡感覚などの粗大運動機能、平衡感覚などを育てると同時に体を動かすと心も動き楽しいということを知る。

(具体的な実施内容)

主にマット活動の中で使用をしている。マット活動は0歳児から取り入れる運動あそびの一つであり、コロコロと転がる、ハイハイをする、斜めにして滑るなど全身を動かす遊びを経験することが出来ている。他の年齢児でも成長に合わせたマット活動を取り入れることで乳児から幼児までマット活動を通して体も心も動かし楽しんでいる。マット活動だけでなく、跳び箱や巧技台などと組み合わせて使用するなど運動あそびの主な遊具の一つとして活用をしている。また、軽量かつクッション性が高く、持ち運びがしやすいことから、運動あそびだけでなく誕生会（乳児の転倒防止のため）や地域の親子参加行事の際に使用するなど様々な用途で使用している。

(今後の課題と展望)

マット活動は運動能力の向上に繋がる遊びではあるが、動きが大きく、全身を使うため怪我が起きる可能性も高く、保育者の指導、補助の仕方、環境設定など細やかな配慮の中で行う必要があるため、今後も研修などを通して、職員のリスクマネジメント力を向上していく必要がある。その中で、体を動かす楽しさを知り、マット活動から園児の支持力、跳躍力、平衡感覚など運動能力が向上し、就学に向け自信になることを期待しています。



・巧技台Bセット

(ねらい)

跳び箱、平均台、滑り台、はしご渡り、鉄棒など組み合わせにより、支持力、跳躍力、平衡感覚、懸垂力、スピード感覚など様々な子どもたちの身体機能を高める保育を実践できるとともに、子どもたちのチャレンジ精神や思いやり、協調性、競争心、達成感など内面の心を育てる保育にもつなげたい。

(具体的な実施内容)

運動遊びの遊具として様々な用途で使用しており、運動会では年齢児問わず、様々な競技の中で活用している。乳児クラスでは、巧技台の上り下りや段を重ねてよじ登りジャンプ、平均台渡りやはしご渡り、階段から滑り台など、幼児クラスでは、鉄棒のぶら下がりから始め、前まわりや逆上がり、跳び箱や雲梯、飛び込み前転の障害物として使用するなど子どもたちの運動能力を高める保育の実践に欠かせない運動遊具として活用している。子どもたちは運動遊びに挑戦をすることで、チャレンジ精神や達成感、また、教え合うことや一緒に頑張ることで思いやりや協調性、競争心などに繋がり、心身の成長を育むことが出来ている。

(今後の課題と展望)

子どもたち全体ではなく、一人ひとりの運動能力に見合っているか、また、どこまでチャレンジが出来るかを体と心の両面から見極めながら行う必要があるため、十分に配慮した活動にする必要がある。その中で巧技台を使用した様々な運動遊びを連続的に、継続的に行うことで、運動能力の向上、心を育てる取り組みとしても生かしていきたい。

以上

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 星 槌
施設名	ティンクル瀬谷保育園
報告者（役職）	玉木 依子（園長）
住所・連絡先	横浜市瀬谷区瀬谷 4-2 5-2 Tel 045-459-5403 E-mail seya@seisa.ed.jp

○ タイトル

元気にたくましく育て！瀬谷の子ども「体づくり運動プログラム」

○ 主な助成備品

巧技台セット・収納車・カラーマット・土俵マット・おやま三つ折

1. 保育計画策定の目的

ティンクル瀬谷保育園は、2013 年に開園したばかりで家庭保育や園庭のない保育園からの転園などで運動が足りていない子どもたちがほとんどでした。遠くから通ってくる子どものほとんどが車か自転車で、徒歩で来る子どもが少ない状況でした。その結果、子どもたちがほんの少し歩いていける公園さえも、着いたときには「疲れたー」という言葉が出てくるような状況でした。

また、室内では、幼児が長時間椅子に座ってられない。まっすぐ立てないなど。幼児なのに転んだ時手がつかなくて、顔面をけがする子が多く出ました。

体幹が出来ていない子どもが多くいることがわかり、普段の保育の中で体幹を鍛えるための基本的な運動を楽しみながら行うことで、その能力を高めようと考えました。

そして、この「体づくり運動プログラム」を通して体力だけではなく、体幹を鍛えることで、物事への取り組みや探究心、集中力なども同時に育てたいと考えました。

2. 具体的な実施内容

まず、室内ですること。室外ですることに分けて考えました。そして用具を使わないでも出来ること。用具を使用することで効果が期待できることの2点に分けて考えました。

＜用具を使わないもの＞

乳児・・・＊うつぶせ寝から肩を支えて頭をあげる。

＊あごをもちあげる。

＊うつぶせ寝状態からあごを上げる

などの運動を保育士と触れ合いながら行うことで筋力を強化していく。ハイハイ、つたい歩きなども屋内で積極的にする。



幼児・・・出来るだけたくさん歩く。園庭でのかけっこや鬼ごっこで瞬発力や持久力をつけていく

<用具を使った活動>

乳児・・・*カラーマットやおやま三つ折などを使用しハイハイ遊びをたくさんする

幼児・・・*乳児同様転んだ時に手が出るようにハイハイ遊びを積極的に取り入れる。
その結果、マットの上、フローリング、平均台など手を突く場所が変わることによって力の入れ方や手の出し方が上手になってくる（同時に足の筋力もつく）。

*平均台、跳び箱などを上手く組み合わせ、年齢別サーキット遊びを実施



※ 体を動かすことが習慣化されてくると、次第に鉄棒遊び、ボール遊びなどに広がっていききました。

3. その成果と評価

すぐに結果の出るものではありませんが、週に何回か取り入れることにより一人ひとりの子どもの技術が上がっていききました。

最初は怖くて平均台に上れなかった 1 歳児が保育士の手を借りて上手に渡りきったり、跳び箱から飛べるようにもなりました。運動遊びの苦手だった子どもが喜んでマット運動に参加出来るようにもなりました。心配だった幼児も随分遠くの公園にも出かけられるようになりました。ふらふらして真直ぐ立てなかった子もしっかり立てるようになりました。

この秋のお芋掘りには 3 歳児以上が片道 30 分以上も歩いて、そして、見事なお芋をリュックにしょって、誰一人泣き言もいわず歩いて帰ってくることが出来ました。又、運動会では 5 歳児がみんな力で合わせて組み体操で見事な演技を披露してくれました。さらに、5 歳児の身長・体重では、大きい子どもで 1 年間に男子で 8cm 女子でも 7cm の伸びが見られました。



保育は日々の積み重ねがとても大事で、結果がすぐ見えるものではないものですが、1年たつと成長がはっきり見る事が出来、やってよかったと強く感じています。

今まで、すぐに飽きていた活動も長時間取り組むことが出来るようになりました。自分で考えていることを組み立てて言葉で発表することも出来るようになりました。絵画などもイメージすることが苦手だった子どもも、体験を多くして表現が豊かになったと感じています。このように表現活動にも積極的に取り組めるようになったと感じています。



このように運動遊びを通して体力面といった表面的なものだけではなく、内面的なものも大きく育ってきたと感じています。

4. 今後取り組みたいこと

私たちの園はまだ、2年目で発展途上ですが0歳でお預かりした子どもたちが5歳で卒園する時には私たちが考えている、心も体も調和の取れた子どもに育ってもらいたいと考えています。又知識を知恵として活用する力を育てる為に一層運動遊びを取り入れていきたいと考えています。

以上

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 釜城会
施設名	神戸エンゼル保育園
報告者（役職）	輔信文万（副園長）
住所・連絡先	神戸市長田区長楽町4丁目4番3号
	☎ (078) 732-7887
	E-mail kobe-enzeru@xrj.biglobe.ne.jp

○タイトル（保育計画）

頑張れ！ エンゼルっ子

○主な助成備品

- ・ライトマット ・紅白玉入れ台 ・玉入れボールセット
- ・ソフティボール ・キッズボール ・平均台

1. 保育計画策定の目的

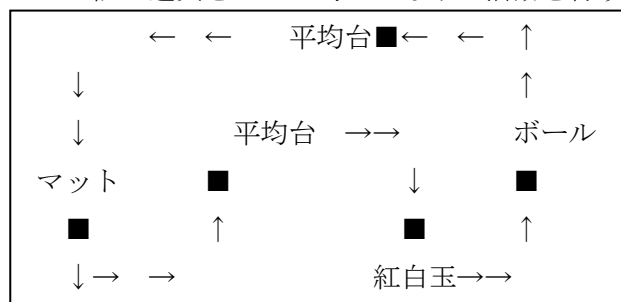
神戸エンゼル保育園では、園児たちの全身的総合的な運動あそびを通じて、幼児期の心身の調和的発達を促し、健全な心身の基礎をつくることを目標とする。

2. 具体的な実施内容

器械運動（サーキット運動など）

- * マット・・・動物表現・横転・前転・側転
- * 紅白玉・・・玉投げ遊び・玉入れ遊び・玉入れ競争
- * ボール・・・投げる・転がす・受ける・ドッジボール遊び
- * 平均台・・・いろいろな歩き方で移動する。

上記の遊具をコース的につなげて活動を行う。



【マット運動】

いろいろな動物表現あそびを通して、マットの上でさまざまな歩き方、跳び方、転がり方などを楽しむ。

- * ペンギン・・・両膝立ち歩き
- * カメ・イヌ・・・四つんばい
- * キリン・・・・・・つまさき立ち
- * ワニ・・・・・・ほふく前進
- * カエル・ウサギ・・・両足とび
- * イモムシ・・・横転・友だちと組んで横転
- * マルムシ・・・前転

【平均台運動】

2本横に並べて太くしたところを歩き、平均台の下をくぐったり、座って前進するなどして、平均台に慣れていった。次第と平均台の上でバランスをとって歩いたり、ポーズをしたり、横歩き、後退、積木などを置いて、障害物越えをしたり、両手で握って腕だけで前進するあそびを楽しんだ。

【ボール】

幼児クラスでは、ボールを高く投げる、受ける、的にあてる、カゴに入れる。友だちとボールの受け合いをする。集団でボール送りやボールころがしをする。ドッジボールあそびやサッカーあそびやラグビーあそびなど、全身を使ってあそんだり、友だちと競ったり、協力したりする運動を行った。

乳児クラスでは、友だちとサッカーのように蹴りあいっこや走って追いかけてキック、投げ合いっこしたりもしながらあそびを楽しんだ。

【玉入れ】

玉入れの玉を使って投げる。的（人）に投げる→腕の使い方（投げ方）、的に向かって投げる動きや意識を向けること。

2チームに分かれ、赤組→赤玉、白組→白玉を投げるあそびなどを行った。

【紅白玉】

玉入れをして、ねらって投げ入れるということを楽しんだ。自分とカゴとの距離感を育てた。



3. その成果と評価

マット運動では、動物表現で好きな動物（馬・うさぎ・ペンギン・ワニなど）になって、走ったり跳んだりして、マットに慣れ親しむことができた。また、色の違うマットを使い、色を判別する力、指定された場所（マット）に留まることができるようになったり、マットの上で色んな動き（転がる、ハイハイなど）をして、様々な体の動かし方を体験することができた。

また、転がる運動では、はじめは、ななめに転がっていたが、繰り返すうちに、だんだんとまっすぐ転がることができるようになった。どうすれば、まっすぐに転がるができるようになるかを考え意識して転がるようになった。「サツマイモ コロコロ。ジャガイモ コロコロ。二人ゴロゴロなどを楽しみながら、転がり方によって、バランスをとり、自分のからだをコントロールできるようになったり、腕や脚の筋力を高めることにつながった。また、友だちといっしょに転がることにより、協調性を養うことができた。

はじめは前転をこわがっている子もいたり、頭のとっぺんを床につけている子もいたが、援助やアドバイスによって、徐々にうまく回転できるようになった。

平均台では、手をついて歩く、座って前進するなどを楽しんだ。砂場のふちを歩けるのに、平均台は怖い子がいたが、次第に高さに慣れていった。そして、両手を広げてバランスをとりながら歩き、だんだんと安定して歩くことができるようになり、補助なしでも歩けるようになり、次第に、子どもたちの平衡感覚が身についてきた。

ボール運動は、一人でボールを上投げて、両手で受けたり、二人でボールのやりとりを楽しみながら、ボールの扱いに慣れ、巧緻性を高めていくことができた。

また、集団ではドッジボールあそびを喜び、ボールあそびを通じて、しっかりと投げることができるようになったり、ボールの動きをよく見て、素早くよけたり、受けたりすることができるようになった。子どもたちの敏捷性や瞬発力を養うことができた。

また、ゲームなどの中で、ルールを理解し、守って、友だちとゲームする楽しさを味わった。サッカーあそびやラグビーあそびをして、全身を使ってあそんだ。競ったり、協力したりする楽しさを味わった。



玉入れは、玉入れの玉を使って投げたり、的（人）に投げたり、カゴをねらって投げ入れたりしながら、自分と的との距離感を育てた。腕の使い方、的に向かって投げる動きの中で、注意力・集中力を養うことができた。2チームに分かれ、赤組→赤玉、白組→白玉を投げるあそびの中で、自分や友だちが何チームなのか、チームの認識をし、競争する楽しさを味わった。

それぞれマット・平均台・ボールなどの遊具の特性や、色々な使い方を知り、安全に楽しく遊べるようになった。各遊具を利用して、子どもたちの平衡性・協応性・敏捷性・リズム感や筋力などの運動要因を高めると共に、集中力・判断力・頑張る気持ちを養うことができた。遊びを通じて器械遊具に親しみ、器械技能を身につけることができた。

4. 今後の課題と展望

これまでの成果を伸ばしていくために、神戸エンゼル保育園では、園庭も広くなく、開園当時より児童数が増えてきたので、今後とも運動遊具を有意義に使い、人数に対応できるように各運動用具も整備し、出来るようになる達成感を体験していきたいと考えています。そしてまた、運動あそびを通じて、「いのちを大切にする子ども」をモットーに、自分を、みんなを、自然を大切に、健康で活動的な子ども、思いやりのある豊かな心をもつ子ども、素直で協調性のある明るい子どもを育み、よりよい保育の充実に努めてまいりたいと思っています。

以上

保育計画成果報告書

法人名	学校法人 大塚学園
施設名	リトルメイト保育園
報告者（役職）	高山 真実（保育士）
住所・連絡先	広島県広島市中区光南 2 丁目 1 4 - 1 2 TEL 082-244-2525 E-mail little-mate@yoshijima.ed.jp

○タイトル（保育計画）

日常の保育から親子ふれあいあそびへ。

○主な助成備品

JP クッション（G500）、JP クッション（K-200L）、ソフトステップ、
かるかるマットシリーズ、テnderくねくね平均台（小V型）

1. 実施した保育計画策定の目的

リトルメイト保育園では、子どもたちが心身共に健やかに成長できるよう、動的なあそびを日常保育の中に積極的に取り入れている。

ワニさん（子どもが四つん這いになり保育者が手押し車で前進する）、オットセイ（腹ばいになり両手で両足を持って体を反らせる）、コアラ（保育者の腕に両手でつかまりぶら下がる）、おさるさん（保育者と向き合い手を握りでんぐり返しをする）、おうまさん（高這い）などいろいろな動物に変身するあそびや、体を使ったゲームを行うなどして、日常生活ではあまり使われない筋肉を遊びながら動かすことで、支持力、跳躍力、懸垂力、逆さ感覚などを身につけていくことを目的としている。

また、乳児期（3歳未満児）に全身を使ったスキンシップや運動あそびを習慣的に行うことにより、幼児期（3歳以上児）の全身運動や集団あそびへとつなげていくこともねらいのひとつとする。

助成備品の JP クッション（12センチ程の厚さの柔らかいマット）は上に立つと、ふわふわして足が沈み込み、不安定な姿勢から無意識のうちにバランスをとろうとする。体勢を取り戻そうとする無意識の動作で、足、腰の筋肉が自然に鍛えられるという効果も期待できる。平均台からクッションに向けて跳んだり、いくつかのクッションを並べて両足跳びで飛び移るなどの運動あそびで跳躍力を、また、トランポリンのような弾性があるので、クッションの上でジャンプを繰り返したり、幅の狭い平均台のようなクッションを渡り歩くことでバランス力や集中力を養うことを目的とする。

ソフトステップ、かるかるマットシリーズ、平均台も同様に、あそびの中から、楽しみながら体づくり、平衡感覚、身体能力の向上を目的とする。

このようなあそびを日常保育に取り入れながら、年間を通してこの運動器具を活用し、親子参加型の園行事『親子ふれあいあそび』に繋げていく。

2. 具体的な実施内容

<JP クッション>



JP クッションを並べて、両足跳びで飛び移る。少しずつクッションの間隔を広げていき、楽しみながら跳躍力を養えるようにする。



また、JP クッションを台の傍に置き、台から飛び降りる際の着地点の目標となるようにする。子どもたちはねらいを定めて飛び降りることができる。



幅の狭い JP クッションを平均台のように並べて、橋に見立て、海の中のワニさんに食べられないように渡ること、落ちないようにバランスを取りながらも、視線を足元とは別の場所（保育者）へやり、視野を広げていくことをあそびの中で身につけていけるようにする。



日常の保育の中で子どもたちの大好きなあそびを、園行事『親子ふれあいあそび』へと繋げ、保護者の方とのふれあいを楽しめるようにと計画した。

<かるかるマットシリーズ>



マットは滑り台からの転落防止に使用するほか、様々な用途で使用しているが、特に自園では左の写真のように凸凹に設置して遊ぶことが多い。

低月齢児は、ハイハイを促すために、凹凸のあるマットを上り下りするよう誘い掛け、腕、腰、足などの力をつけられるようにしている。



歩行が確立したら高低差を大きくしていき、斜面の上り下りを経験する中で、調整力を養えるようにする。

<くねくね平均台>



この平均台は、上を歩いて渡ることの他、低月齢児はまたいで腕と足の力で前へ進んだり、這って下をくぐったりすることで、手足の筋力強化、ボディーイメージにつなげていく。

<ソフトステップ>



間隔を開けて階段状に設置し、落ちないように意識することで集中力、バランス感覚を養えるようにする。また、慣れてきたら少しずつ間隔を広げたり、凸凹の並べ方に変化をもたらしたりすることで、繰り返し挑戦する楽しみが生まれる。

3. その成果と評価

これらの運動あそびを日常の保育の中に取り入れ遊ぶことにより、平衡感覚、身体能力の向上だけでなく、保育者に見守られる中で少し難しいことにも挑戦してみようとする力、友だちとの身体の触れ合いへの喜び・楽しみの感情、順番を待つことの社会性等も育っていると感じられる。

4. 今後の課題と展望

遊具を助成して頂くことにより、このように子どもたちとのあそびの幅を広げることができた。今後もこうした運動あそびを繰り返す中で、子どもたちの心と体の成長を育めるよう、これらの助成備品を大切に扱い保育に取り入れていく。

以上

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 清新会
施設名	あさひ保育園
報告者（役職）	坂口 美恵（施設長）
住所・連絡先	福岡県福岡市城南区梅林4丁目5-27
	☎ 092-874-2388
	E-mail asa-hi@aqua.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

『動ける子』～考える力と根気を培う運動保育援助～

○主な助成備品

ネット式太鼓橋/カラーバトン/ロクボク付き滑り台/ブロックマット各種/ワンタッチ鉄棒/フォーム跳び箱/カラートンネル/コンビハイハイランド 等

1. 実施した保育計画策定の目的

「動く」ことを通して子ども達は、いろいろな事を吸収し、見るものや触れるもの、体験を通して言葉の数も増えていきます。当然動ける子どもは色々な刺激を受けられるということになってきます。身近では、人が生きるために持って生まれた運動能力が、大人の過剰な援助や環境により乏しくなっている姿を感じます。0歳児は、把握反射があり、例えば大人から離れないようにしがみつきぶら下がり柔軟な体で活動し身体を発達させています。歩くようになるまでは、大人は、色々なかかわりを持って寝返りや這い這い、伝い歩き、歩行と促していくのですが、「自分でしたい」という気持ちが出てくるに従い、見守るどころか、大人の気持ちを優先して面倒だから抱っこして移動、靴も履かせる、鞆も大人が持つ、車の移動が速いから歩く機会はほとんどない、もしくは、怪我が怖いので先に手を差し伸べ、行動を止めさせる等などの過剰な援助が見受けられます。

子どもは、好奇心や夢中になって遊ぶ・何度も繰り返し試行して出来たという達成感をえる機会を得ないまま、運動能力や根気ばかりを求められているように感じてなりません。生まれた時に持っていた力を持続し、発達させる事が日常の生活環境や大人のかかわりによって出来るのであれば子どもの考える力と根気も培われてくると期待します。

しかし、あさひ保育園では、園庭が三角形の形状で狭く、交通量の多い道路に隣接しており、思いっきり走ることもボールを蹴ることも難しい環境にあり、2階に屋外遊技場を設置していても天候に左右され、ホールもない為、廊下や保育室での限られた空間の中で粗大運動・さくらんぼリズムをしています。

園庭は、固定遊具ではなく築山を設置して何も遊具のないところでも工夫して考えて活動を促すものの、特に未満児が思う存分体を動かし活動できる環境がないことが課題でした。乳幼児の運動発達を促す環境を整えることで、心身ともにバランスよく成長していくことを期待するとともに、子どもの育ちを支える大人の言動にも変化が出てくることで、保育園が子どもとの共生を喜び合える場となることを目的としました。

2. 具体的な実施内容

①0歳児は、運動遊び・感覚機能・探索操作の項目をあげ形成月齢を記録する。

1歳児からは、入所時/10月/2月に項目別に経過記録をとる。

3歳児から5歳児は、11月と2月に簡単な体力測定をする。

②毎朝20分間、体育ローテーションを実施し、繰り返し存分に自分の気持ちで遊ぶ機会をつくる。



③持ち運び自由で、子どものその日の姿に応じて粗大遊びのコーナーを保育士が負担に感じず環境設定しやすい状況をつくる。子どもの育ちに着目し、その時期に必要な運動環境を整える。



④保育者・保護者への子ども理解を深める。

日常的に環境を設定している中で、遊ぶ子どもの姿を見守りながら子どもの発達に応じた運動欲求を満たすことで情緒面も安定してくることを伝える機会をつくる。



3. その成果と評価

期待する成果に対しての評価

① 自分の意志で自在に自分の体を動かせるようになる。

安全な室内使用の運動遊具が普段の生活の環境の中にあるので、「跳びたい」「転がりたい」「くぐりたい」「上り下りしたい」という運動要求を、危ないからと止められることなく、遊ぶことができています。今日がうまくいかなくても何度も繰り返し継続して遊べるので、ある日できた時の喜びは大きい。



② 自分の命を守るための身体能力が身に付く。

大人が過剰な援助を止め見守りに徹することで、高さのある所に登っては、むやみに飛び降りたりする等の姿が減り、後ろ向きに降りる。手で体を支える。足を下ろしてみても高さを確かめる等、自分の身体を使い、考え行動する姿へと変化がみられるようになった。又、いつも生活の環境の中にあるので、机や椅子や棚など危ないところについて欲求を満たす必要がなくなっている。満足すると自然に落ち着き、興奮状態が続かないので混雑やトラブルになりにくい。



③ 満足感・達成感を得られることで考える力と根気が養われる。

夢中で遊んでいる子ども達に対して、大人が「時間だから」と途中やめさせたりすることを控え、保育士同士や保護者同士が見守りを託すことで、ある程度の時間の制限をなくした。子ども達は、「あと〇回！したらね。」「〇〇先生と帰る」と自分の気持ちで終わりを決める。満足するまで遊ぶことが出来たという安心感を得て、気持ちを自己コントロールする力や、次の日も次の日も挑戦する粘り強さがみられるようになってきている。



「もう一回！」



「みて！みて！できたあ」



④ 社会性・認識力・語彙・空間認知等の大人になってから必要になる巧緻性が育まれる。

いつでも体を使って遊べるという安心感は、子どもたち同士でルールを作り始め、逆上がりができるように助けあう場面や、工夫する力、大人の準備や片づけを手伝う、年下の子に対して譲る、危ないと思ったら止める等の姿も出てきている。また、身近な道具を使って遊びを創造するようになっている。



3 歳児

「やったあーとどいた！」



5 歳児と 1 歳児

「いいよ！ゆっくりで」



5 歳児

「ジャンケンで交代ね」

⑤ 子どもが「何を楽しんでいるのか」「何処に満足感を得られているのか」等、子どもの姿を通して、関わる大人の言動が変わってくる。

常に運動遊びができる環境があるため、当初「子どもが帰ろうとしない」「危ない」などと大人の都合による遊具の撤去がみられたが、子どもが「みて！みて！」と出来るようになった事を知らせ、何度も出来るまで根気強く繰り返す姿や、大人が手を貸そうとすると「一人で出来る！」と自信をもって取り組む姿を見せることで、遊びだけではなく生活面においても大人側に“見守る”姿勢が生じてきた。大人の行動が変わることで言葉かけも変化し、「すごい」「やったね」「そんな事もできるんだあ」「ここで見てるよ」「大丈夫」等と大人の褒め言葉が増え、更に挑戦し続ける子どもの姿がある。また、自分の子どもだけではなく、他の子どもに対しても褒め言葉や関心が増して、みんなで子育てしているような雰囲気が生じている。



⑥ 運動発達の臨界期を知ること、子どもの発達を促す環境づくりを考え提供できる。

- 食事の時の食べこぼしが多いのは肘が下がっていてスプーンを持ち口に運ぶ力が未熟ということに気づき、遊びの場面に腕の上げ下げが出来るあそびを取り入れる。
- 姿勢が悪い子に注目すると背筋の弱さによる姿勢維持が難しいことに気づき、背筋腹筋を使う運動遊びに取り入れる。
- 着脱の際にズボンやパンツを引き上げる力が未熟な子へは、遊びの道具を変えてみる（フープの中に入り足元から頭まで潜り抜けする遊びや巾着袋のだし入れ遊び等）

○座ってパンツをはかせていた子へ運動発達を見ながら壁に寄りかかって立って足を入れる方法を伝えるタイミングがわかる。

大人が「出来ない」ことに着目するのではなく、身体を自在に動かすせる為には、どんな遊びが必要なのか、どんな環境を用意すれば活動が容易になるのかを考えるきっかけとなっている。大人の指示や注意に偏る言葉かけや過剰な援助が減ることにより子どもが、他の子どもをモデルとして行動し、自分で考え手段や方法を見つける姿が増えつつあるように感じる。



4. 今後の課題と展望

体力測定の実施が26年度からとなり、当園で継続保育を受けた年数との対比データが取れておらず、子どもの運動能力と思考力・根気の推移を確認できるまでに至らなかった。引き続き体力測定を継続的に行っていきます。しかし、保育園での生活場面だけではないところでも子どもたちの動ける力が発揮されています。例えば、あさひ保育園では、3歳以上児になると遠くの園外保育も貸し切りバスを使用せず、公共機関を乗り継ぎ（地下鉄・バス・徒歩）目的地まで移動します。身体が自分の思うとおりに動くということは、子どもたちの活動が広がり、苦にすることもなく参加し、「出来た」という自信は、保護者にも伝わり休日の外出を公共交通機関を使用するなど、家庭での生活も変化が出てきているようです。送迎時の階段の上り下りも、自分で歩きたがり容易にできるので、いつまでも抱っこされて移動する姿が少なくなってきました。

保育者も保護者も子どもの力や可能性に気づき、「信じる」姿勢に変わってきているように感じます。今年の運動会では、保育士からの提案で、低年齢児から順に出るのではなく、年長児から出場することでモデルを見て年下の子が「やってみたい」という気持ちを高めることから導入し、子どもの力を信じ、見守る姿勢へと変わってきました。それに応えるように持っている力を発揮する子ども達。又、年長児や年中児は、大人をモデルにして道具の出し入れなどを進んでする姿が、保護者にも共感を生み『自分で考え行動できる』をねらいとした園の保育方針を理解して頂ける一つの機会となりました。同時に、子ども達が主体的に活動する事により、大人が抱える「大変さ」が軽減していることに気づき始めています。遊びの中の「楽しい」が、子どもの成長発達を促し、同時に物的環境と子どもを信じる人的環境が相互に作用することが大切だと実感しています。

開園して間もないにもかかわらず、第一生命財団様から助成金を頂き、子どもの運動環境を整える事が出来ました。子どもだけではなく大人も気持ちのゆとりが出て、子どもとの共生を喜び合えるようになってきています。26年度からは、子育てサークルも実施できるようになり地域の子どもたちの運動あそびにも活用させていただいています。有難うございました。これからも、子どもたちの為に、家庭と保育園が『共に考え・共に育つ』環境を整えてまいります。

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 合志市社会福祉協議会
施設名	このみ坂保育園
報告者	園長 北村慶子
住所・連絡先	熊本県合志市須屋 2273-2
	☎ 096-247-6630
	E-mail :kodomo@koshi-shakyo.or.jp

○タイトル（保育計画）

～感性豊かに、たくましく健やかな育ちを願い～

創ろう！遊ぼう！みんなのこのみ坂ワンダーランド

○助成備品（運動備品 3 点）

- 1 アスレチックブリッジ
- 2 ポイントアスレチッククライミング
- 3 ポイントアスレチック太鼓うんてい

1. 実施した保育計画作成の目的

子ども達が保育園の生活の中で一番大切なのは「あそび」です。この「遊びの充実・遊び込みの経験」こそが社会で生きていくために必要な力が備わるとされています。特に、幼児時期に必要なのは外遊びです。走って転んでかくれて追いかけて登って跳んでと、原始的で何もない山や河原で自由に遊ぶことが遊びの醍醐味でしょうが、全てが自然環境に恵まれているわけではありません。本来は子どもだけではなく、大人や誰にとっても自然の中での運動や外での遊びは楽しく自由なものだと思います。しかし、子ども達にも大人社会と同じようにゲームやインターネットなどで身体を動かさずに、面白さを味わう行為が多くなり、集団遊びの中で獲得するコミュニケーション能力が育たず、親の過度の期待からの早期の知的教育に走ってしまう傾向が見受けられます。この状況から、日常の保育の中で外遊びや運動（運動能力・体力増進）をそれぞれの年齢を考慮しながら、意図的な設定と目的を持って、子どもが本来持っている、自分の身体を使っでの遊びの楽しさに気付かせ喜びを味わうことができる機会を与えることが必要と考えて運動備品を使って遊ぶ保育計画をたてました。

保育園に隣接する畑の一部を賃借して築山を造り遊びの活動を取り入れていたこともあり、今回の助成金を活用して新たに遊びを広げられるように、大型のアスレチック遊具を設置することを計画に盛り込みました。子ども達が冒険できる見立て遊びを広げ、創造力ゆたかな幼児期に五感をフルに発揮して、本園の保育方針のひとつでもある「感性豊かに健やかにたくましい子どもの成長を育む」ことが大切であるとの願いも込めて“このみ坂ワンダーランド”とタイトルにしました。保育園だけが独占する遊び場所ではなく、中高生も集える場所としてバスケットリンクも空き地に設置し色々な世代も利用、交流ができるようにすることも目的のひとつです。

2. 具体的な実施内容とその成果と評価

実施計画は、第五次計画まで立案しました。

第一次計画・・・空き地の整備（石ころひろい 草刈 囲い作り）

子どもが自分達の遊び場という意識を持つために石ころ拾いや草取りなど出来るところを手伝い、地域の方、ボランティアの方（団塊の世代の男のサロングループ）に協力を頂き、竹の支柱にロープを張って子どもが落ちないように手作りの囲いをお任せして造っていただきました（竹は近隣の竹山から頂きました）。

第二次計画・・・築山作り（土とヒューム管を入れてトンネルをつくる）

黒土の感触を味わい、泥団子を作り雨上がりの時は水たまりで泥遊びを漫喫しました。



1 歳児が自由に遊ぶ様子



2 歳児が裸足で遊ぶ様子

第三次計画・・・助成金による遊具購入（アスレチック遊具3点）

異年齢（3.4.5 歳児合同）クラスの特徴である、年長児の遊ぶ様子を見て、憧れを持ち「やってみよう」「やりたい」という気持ちを大切にして運動遊具に挑戦しました。

☆アスレチックブリッジ

木製の吊り橋はバランス感覚を養うことができます。また、大好きな絵本の三匹のやぎののらがらどんになって吊り橋を渡るドキドキの冒険遊びごっこは創造性も培うこともできます。



3 歳児は慎重に渡ります



4 歳児は余裕です

☆ポイントアスレチッククライミング

クライミングの登り降り遊びは手の握る力・足の踏ん張る力・手足を交互に動かすバランス（脳と筋力の働きを活かして）を養います。空間部分は低年齢児でも隠れ場所やごっこ的な遊びの場所として静的な遊びの楽しさもあります。



3歳児が踏ん張って登ります



高い所に登ると景色が違います

☆ポイントアスレチック太鼓うんてい

身長より少し高い空間を握力と振れをリズムよく使って移動して平行感覚・空間認知能力を習得できます。少し高度な運動になりますが上手にできる子を見ることで恐怖心が克服され意欲を持ってチャレンジすることができるような配慮をします。年長児の運動能力の高い子どもにはよりダイナミックな動きをすることで満足感・達成感につながります。ただし、一人ひとりの能力には違いがあるので、無理強いすることなく支援の必要な子どもには個別の配慮をします。



5歳児はバランスよく渡り切ります



3歳児はまだ助けが必要

3. 今後の課題と展望

第四次計画・第五次計画については、地域の方の協力や父親の出番として泥団子小屋などを建てる計画を提案したいと考えています。

最終目標は、運動能力の向上・体力増進だけでなく、異年齢保育の中で仲間と関わりながら好きな遊びを楽しみ交流する中で結果的に身体機能・運動能力を育むことにつながることを目的としています。

保育園の運営費の予算では、補助がないと大型遊具の購入も厳しい現状ではあります。今回の第一生命財団の助成金で物的環境を整えることができ思わぬ贈り物になりました。また、助成で購入した遊具の設置がきっかけに、賃借していた土地を購入することになり、園で不足していた駐車場の拡張にもつながりました。

工事期間中に遊具は園庭内に移され設置されると子ども達は、サーキット遊びのように日常の朝、夕の自由な時間に今まで以上に思い思いに遊具に親しむ姿が見られるようになりました。いつも遊具が目の前にあり身近にあることで、子どもにとっては遊びの幅が広がり挑戦する回数が増え無意識のうちに運動能力の向上にもつながっていったように思えます。計画していた築山の中に設置することは今後の様子を見ながら検討したいと思います。

子どもの「遊び」は絶えず変化するものでした。改めて考えると、計画概要書に記載したタイトル『創ろう！遊ぼう！みんなのこのみ坂ワンダーランド』とは、子どもがいる場所に、育っていく中でおもしろくて楽しい所が子ども達にとってのワンダーランドになると思いました。これからも、この遊具を、子どもの心身の発達、成長を促すアイテム（物的環境設定）として保育に活かしていきたいと思います。



放課後に遊びに来た小学生



園庭内に設置された遊具で遊ぶ



5歳児年長児の記念撮影